

会議録	
名称	平成29年度11月富士見市図書館協議会
開催日時	平成29年11月11日(土) 午前10時00分～12時00分
場所	市役所本庁舎2階 市長公室
出席者	<p>○図書館協議会委員 渡辺志津子委員長 小森和雄委員(職務代理者) 木村多喜雄委員 渋谷八重子委員 佐藤千枝子委員 長ヶ原美博委員 野瀬武博委員</p> <p>○教育委員会生涯学習課 鳥海課長 古川主査</p> <p>○図書館 清水中央館館長 神山マネージャー 長谷川鶴瀬西分館長 青崎ふじみ野分館長</p> <p>○指定管理者 紀伊國屋書店公共図書館部 福室</p>
欠席者	関根衣都美委員 本間雄一委員 山崎美晴委員
公開・非公開	公開
次第	<p>○報告・連絡事項</p> <p><input type="checkbox"/>各館からの事業報告(中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館)</p> <p><input type="checkbox"/>NDC新訂9版採用 装備基準の全面改訂について(中央図書館)</p> <p><input type="checkbox"/>「第3次子ども読書活動推進計画」について(生涯学習課)</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館協議会11月定例会次第 ・指定管理者制度について ・各館の事業報告(中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館) ・第3次子ども読書活動推進計画(全5章) ・子どもの読書活動に関するアンケート調査結果 ・「自治体行政が責任を持ってこそ公立図書館は発展する」(『出版ニュース』2017年10月中旬号より) ・「学校図書館図書整備等5ヵ年計画」について ・富士見市立図書館広報誌『さざなみだより』ほか
会議録確認	渡辺委員長

議事内容

1 委員長あいさつ 渡辺志津子委員

2 指定管理者制度について

委員：前回の協議会において出された質問を受けて、指定管理者制度がどのようなものか生涯学習課より説明をお願いしたい。

生涯学習課：資料に基づき説明。

委員：「図書館流通センター」とはどのような会社か。

図書館：全国で300～400の図書館を受託運営している民間の会社である。

委員：「PFI」という言葉だけでは分かりづらい。

委員：資料にある分かりにくい単語については、次回、生涯学習課より説明をお願いしたい。

生涯学習課：次回、説明する。

委員：「自治体行政が責任を持ってこそ公立図書館は発展する」（『出版ニュース』2017年10月中旬号より）は、指定管理者制度についてわかりやすく説明がされているので配布した。

委員：この記事の意見に賛同する。コスト削減を目的に、富士見市は資料館の指定管理者制度導入を検討していたことがあるようだが、結果的には導入されなかった。資料館は、貴重な地域資料のやりとりがあり、指定管理にはそぐわないと考える。

3 各館からの事業報告

<中央図書館>

・資料に基づき報告。特に「わらべうた講座」について説明。

<鶴瀬西分館>

・資料に基づき報告。特に「リトミック&コンサート」、学校連携について説明。

<ふじみ野分館>

・資料に基づき報告。特に「まじょたちのおはなしハロウィンパーティー」、「プレパパ・プレママ講座」について説明。近隣の児童館や保育園での出張おはなし会等、外部連携に重点を置いている。

【質疑応答】

<中央図書館からの報告について>

委員：「読み聞かせボランティア」、「音訳グループかたりべ」は、図書館とどのように関わっているのか。

委員：読み聞かせをする本を団体貸出で借りている。

委員：音訳をするための資料の下調べで図書館を利用している。図書館音訳

者として登録しているメンバーもおり、音訳や対面朗読の依頼があった場合に協力をしている。専門知識を持ったボランティアが継続して活動することに意味があるが、最近ではボランティアの人数が減少している。

委員：ボランティアの育成が必要である。

委員：保育所への配本と学校への団体貸出はどう違うのか。

図書館：保育所への配本は、保育所からのリクエストに応じた絵本と、図書館で選んだ絵本を合わせて毎月貸出しているものである。

委員：対面朗読は、図書館とボランティアがどのように関わっているのか。

図書館：場所、日程、音訳者の調整を図書館が行い、朗読は音訳者がしている。

委員：対面朗読の対象は、どのような方たちか。

委員：障がいの程度は人によって様々である。対面朗読の場合は、利用者の方の視力や見え方に合わせて本を読み進めている。どのような障がいのある方にも対応できるようにしている。

<鶴瀬西分館からの報告について>

委員：中学生の職場体験について。実際に貸出の体験をするのか。

図書館：個人情報保護の観点から、一般利用者には、貸出せず、中学生自身が自分用に資料を予約し、その予約資料の貸出をする。図書館の本の流れを知るための体験である。

委員：模擬的な体験ということか。

図書館：その通りである。

委員：リトミック&コンサートについて伺いたい。

図書館：前半は、親子が触れ合うリトミックを行い、演奏をBGMに絵本の読み聞かせ等をし、後半はコンサートを開催した。

<ふじみ野分館からの報告について>

委員：「プレパパ・プレママ講座」について。どのような経緯でにしじまクリニックと連携することになったのか。

図書館：にしじまクリニックは、ふじみ野分館の近くにあり、外部連携に積極的である。クリニックから分館へ、イベント参加の誘いをいただいたことをきっかけに、連携して何かできないかと検討してきた。図書館としては、プレパパ・プレママへの取り組みが必要と考えており、今回の講座を企画した。今後は、より親子が参加しやすい方法を検討していく。

4 NDC新訂9版採用 装備基準の全面改訂について

- ・中央図書館より説明。

図書館：現在、富士見市立図書館は、NDC8版採用中である。中央館開館

以来、20年以上8版を採用しているが、情報学の発達等、現在の状況に合っていない。長く刷新されてこなかったが、2018年1月からNDC新訂9版へ移行する予定である。

また、富士見市立図書館のこれまでの装備の問題点として、図書の背に貼付しているラベルと書誌データの請求記号が一致していないものがあった。昨年度より、ラベルの表示方法の変更、請求記号を一致させる作業を進めている。

委員：NDC 8版、9版、10版があるとの事だが、どの程度違うものなのか。

図書館：基本は変わらないが、情報学の分野等で違いがある。

5 「第3次子ども読書活動推進計画」について

・資料に基づき第3章～第5章について説明。（生涯学習課）

【質疑応答】

委員：数値目標の根拠は何か。

生涯学習課：不読率、児童書貸出冊数は、県の数値目標に基づく。図書館の子どもの利用人数は、指定管理者（紀伊國屋書店）の事業計画目標値に基づく。本を読むことが好きな子どもの割合については、概算の数値である。

委員：数値目標の根拠を明記すべきである。

生涯学習課：明記する。

委員：「学校司書」「子ども司書」という名称は撤廃すべきである。「司書」は資格名であり、実態と名称が合っていない。「子ども図書館員」等の名称の方がよい。どうしても「学校司書」「子ども司書」の名称を使用するのであれば、必ず言葉の定義を記載すべきである。また、「学校司書」に関しては、平成29年4月から名称の使用が開始されたことも記載すべきである。

生涯学習課：「学校司書」「子ども司書」の名称変更は難しいため、言葉の定義を記載する。

委員：富士見市では「学校図書館図書整備等5ヵ年計画」の予算措置はどのようなになっているか。

生涯学習課：学校教育課に確認する。

委員：「学校図書館図書整備等5ヵ年計画」の予算が学校へ配分されるのであれば、本計画の取り組みに対する予算に充てられるのではないかと。司書教諭、学校司書への支援が必要である。

委員：第3章－2.小学生を対象とした取り組みにおいて、「調べる学習講座・読書感想文講座」の担当が「図書館」とあるが、学習指導の必要があり、学校が参加すべきである。同じく第3章－3.中学生・高校生を

対象とした取り組みの「調べ物の際の本や図書館の利用方法の説明」では、担当が「図書館・学校」とある。小学生を対象とした取り組みにおいても、「学校」を入れるべきである。

委員：第3章－2.小学生を対象とした取り組みの「富士見市子ども読書コンクール」について。学校との連携が不可欠である。事業予算はついているのか。

生涯学習課：予算は確定していないが、学校と連携し進めていく。

委員：同じく第3章－2.小学生を対象とした取り組みの「子どもが選ぶ文学賞」はどこが主体となる事業か。

生涯学習課：指定管理者（紀伊國屋書店）の提案事業である。

委員：子どもの読書活動に関するアンケート調査において、「本の場所をわかりやすくしてほしい」「子どもの本のならびかたがよくわからない」等の子どもの声がある。リテラシーを高めていく必要がある。

委員：第3章－3.中学生・高校生を対象とした取り組み、とあるが、中学校と高校をまとめて扱うことに疑問がある。前回も指摘したが、県立高校での取り組みは、県が主体のものである。

委員：第4章－1.子どもが読書に親しむための環境整備において、(3)その他の施設、とあるが、これは公民館やコミュニティーセンターのことか。コミュニティーセンターで子どもたちが本を読んでいる姿をよく目にする。子どもの読書というと、図書館や学校が主体ではあるが、子どもに身近な施設として、公民館やコミュニティーセンターは重要であると考える。

委員：富士見市は公民館等が活用されているように思う。公民館等との連携をすすめていくと富士見市の独自性が出るのではないか。

生涯学習課：今後の策定スケジュールについて。年内に内容を確定させ、1月中旬にパブリックコメントを募集し、次の図書館協議会では、完成版に近いものを配布する予定である。

委員：過去のパブリックコメントも参照し、計画策定を進めてほしい。

6 その他

○次回以降の開催日時について

次回 平成30年3月10日(土) 10:00～

中央図書館レセプションルームにて開催予定。

7 閉会（渡辺委員長）